

平成29年 東北大学後期日程試験【英語】問題分析

1 今年(H29)の傾向

総評・講評(大問毎に)

【総評】

長文読解1題、対話文読解1題、和文英訳1題の大問3問構成。

設問数は大問Ⅰが4、大問Ⅱが4、大問Ⅲが2と数だけみれば例年と同程度であるが、その内訳に大きな変化があった。

まず何より、大問Ⅱに自分の意見を英語で論述する問題が課された。また、昨年まではすべて記述型の設問で占められていたが、今年は10個の設問のうち3つが客観問題(空所補充型×2、内容一致問題×1)となり、それと同時に、昨年は6題だった下線部和訳問題が1題のみの出題となったため、記述すべき量自体は減少した。

読解と和訳というオーソドックスな練習しかしてこなかった学生にとってはやや取り組みにくかったと思われる。

前期同様、英語の理解はできることを前提に、自分の意見を、外国語であっても誤解なく相手に伝えられる言語運用能力を持っているかどうかを確認する問題であった。

【個別設問分析Ⅰ】

アイザック・アシモフのエッセイ(Isaac Asimov, “The dangers of Intelligence” in *The Dangers of Intelligence and other Science Essays*)からの出題。知性が生物種としての人類の存続にどのように関係するのかを語る。所々に読者への問いかけの疑問文の形を取っていて正確に訳すことは難しいが、本文全体の趣旨は把握し易い。日本語説明2題、日本語和訳1題、記号による空所補充1題。難単語はほとんどなく読解は容易だが、だからこそ正確な理解で、設問にあわせ、本文内容に即して解答する意識が大切になる。

問1 第1段落 *these abilities* の内容を問う日本語説明問題で人類が知性を武器に得た能力を本文に即して答える。動植物を絶滅させたり、意のままに環境や地表を変形させえたことが第1段落2文目以降で述べられているのでここをまとめる。

問2 下線部和訳問題。*that* 節、関係節、*ダッシュ*と *by* による挿入句、3つの *to* 不定詞句と2つの比較構文、を正しく把握したい。関係節の構造は主語 *technology*、動詞 *has made*、仮目的語 *it*、補語 *possible* である。「我々が～するのを科学技術が可能にさせた」が直訳になるが、無生物主語構文として「科学技術によって、我々は～できた」とすると良い。*ダッシュ*表記によって、*technology* が言い換えられ、その具体的な説明になっていることを意識して「つまり」や「例えば」を補う。

問3 繁栄の原因について本文に即して日本語で説明する問題。設問文にあるように、チンパンジーや象と対照させることを意識する。本文であげられているのは *rats* ドブネズミと、*roaches* ゴキブリである。ドブネズミの特徴(小ささ、多様な食習慣、高繁殖性)を本文に即して記述する。

問4 空所補充の記号問題。①は同格orで繋がっていることと空欄直後のwithから「人類の持つ知性をすすんで諦める」と同内容になる(イ) dissatisfiedが入る。「快適さと安全性を打ち立てた我々の能力に満足しない」。②は(オ) widerが入る。筆者の見解のひとつにあたる内容でwhether A or Bを意識し「ホモサピエンスの祖先が成功したのはより大きな脳を持っていたことか、より広い食習慣なのか」となる。③は(エ) uselessが入る。人類の繁栄と生存に知性が必要なのか否か、科学技術によって自滅に向かうことへの危惧が疑問文の形で提示されている。④は(ウ) unavoidableが入る。「絶対に避けられないものとして人類の滅亡を見る」。⑤は(ア) advancedが入る。地球外知的生命体についての筆者の見解で、2文前にあるfar surpassed us「人類をはるかにしのぐ」と同内容になる「我々(宇宙人)はあなたたち(人類)よりもさらに進んだ科学技術も持つ」。

【個別設問分析Ⅱ】

ディベートの授業における、参加者の発言を読解する問題。スマートフォンでメールを打ちながら歩く行為を法的に規制すべきか否かがテーマ。

内容一致問題1題、文中の空所補充問題1題、文中の下線部説明問題1題、英語による意見論述1題の構成。読解すべき文章量自体は昨年と同程度であるが、その内容が論説文ではなくディベートでの発言になったこと、設問のうち半分が客観問題になったこと、そして何より、自分の意見を英語で論述する問題が出題されたことで、問題への取り組み方は大きく様変わりした。

問1 内容一致問題。(ア)~(コ)までの10個の選択肢から、本文の内容に一致する5つを選び出す問題。

‘text-walking’の法的規制について、Kanaが賛成、Chieが反対の立場をとっていることをまずは確認する。Kanaは自分と他人にとっての危険性から、法規制が必要だと考えている。Chieはそもそも歩きながらメッセージを打つことは危険でなく、テキストを打つ以外にも歩きながら同時に行うと危険な行為はあり、法規制よりも常識や他者への配慮といったモラル面の強化こそ必要だと主張している。こうした要点が理解できれば解答は難しいものではない。選択肢(エ)は積極的には選びづらいかもしれないが、最終段落1文目を言い換えたものとして理解できればよい。

問2 文脈全体から、2つのことを「同時に」行うことが危険だ、との流れが理解できればよい。また、at the same timeという言い換えが随所にあられており、それもヒントになる。

問3 ‘draw the line’「境界線をひく」「明確な区別をつける」の意。本段落下線部までの内容から、textingと他のアプリの使用との区別をつけることは難しい、と述べていることを読み取る。なお、本文での‘text-walking’はいわゆる「スマホ歩き」とは異なる。ここでは旧式の携帯でメールを打つことも同じ表現で表されているからだ。記述の際には文脈上の意味や役割をしっかりと確認してから訳語を決定しよう。

問4 Kanaに賛成か、Chieに賛成かを、少なくとも二つの理由を添えて英語で論述する問題。課題文を読ませた上での意見論述であるから、本文で挙げられている論点に関係する内容が望しい。具体的には歩きながらのメッセージ作成が危険かどうか、法的規制が必要かどうか、の2点に触れなが

ら意見を述べたい。

【個別設問分析Ⅲ】

出典は養老孟司『いちばん大事なこと ——養老教授の環境論』(集英社新書, 2003年)。著者の専門は解剖学であるが、脳科学から現代社会論まで幅広い領域に渡る数多くの著作を出していることでも知られており、現代文や小論文でよく取り上げられているので、受験生は一度はこの著者の文章に触れたことがあるだろう。今回の問題文は環境問題を扱ったものだが、環境問題を人体という自然をめぐる問題と捉え直し、「人工」と「自然」、「意識」と「体」の対比を通じて著者独自の論点を提示している。

下線部(A)のポイントは3つ。第一に、第1文を「人工」と「自然」が対比になるように構成することが必要だ。日本語では「～たもので」とあまり強調されずに表現されているが、英語では **while** を用いるか、あるいは **but** を用いて対比を明確にするところである。また、「自然」を名詞 **nature** とするのなら、「人工」も名詞にする。「人工物」を表す **artifact** や **art** が適切だ。

第二に、第1文と第2文の繋がりが円滑になるように構文を組み立てよう。第1文が(A)＝「人工」 **is made by (C)＝「意識」 / (N)＝「自然」 is not made by (C)** という構成になっており、第2文はこの対比構造を生かして(B)＝「体」 **is not made by (C) [= (B) is not (A)] / (B) is made by (N)** それゆえ (B) **belongs to (N)** という論理展開になっている。解答例のように受動態で一貫させると書きやすいが、別解のように SVC 構文で一貫させてもよいだろう。

第三に、「勝手にできた」の訳語選択だ。spontaneously や automatically を避けて、nature との関連性が読み取れる表現にすると、最終的な帰結としての「自然に属す」を導きやすくなる。解答例では「(人間の)体が自然の過程の結果としてできた」と読み替えた。不自然な直訳を当てはめるのではなく、文の論理展開に即した表現をしよう。

下線部(B)のポイントは3つ。第一に、「中年になって」をどう訳すかである。前置詞句ならば **in one's middle age** でもよいが、後述するように出来事の順序を明瞭にするのであれば「～が中年に達する」主語 + **reach middle age** のような節を構成しよう。

第二に、時制を何にするかである。全体として特定の時点での出来事を述べているわけではないので、現在形で一貫させることができる(解答例)。但し、「～するようになる」「～しだす」といった変化を表す部分はしっかりと訳出したい。解答例では **begin to do** や **become** + 形容詞を用いた。また、別解のように第2文の「ずっと忘れていて」を現在完了形で表すのであれば、「(現在)中年に到達している」を現在形で明示し、その時点で「気がつく」「あわてる」ようになる、というように出来事の順序を、時制を用いて整理しよう。

第三に、「忘れる」の訳語の選択だ。第2文の中では「気がつく」と対比されていることがわかるように訳す。**forget** を用いるなら後者を **remember** や **remind**、また前者を **unaware** とするなら、後者を **aware** のように訳出するとよい。

ちなみに、第1文と第2文の論理展開を明確にしたいのであれば、第2文は第1文の「理由」を述べていると考えて **This is because...** で書き始めてもよいだろう(別解)。

来年度に向けて東北大英作文の練習をする際の注意点として次のことを指摘しておきたい。まず、複数の文から成る日本語を英訳する場合に、逐語訳を単純に繋ぎ合わせるのではなく、それらの文全体で何を言おうとしているのかが明瞭に伝わるように全体の構成を考える必要があるということだ。「対比」や「理由」を個々の語句や構文で示し、解答欄の英文のみを読んで元の日本語が伝えようとしている情報を読み手が理解できるようにしたい。そして、長文を読む際にも、焦点が当てられている情報を書き手がどのように表現しているかに注目した読み方ができるようにしよう。今回の英作文でも教科書や問題集の長文中でなにげなく目にしてきた表現や構文を用いて解答を作成することができる。英語とその日本語訳を一対一対応させて丸暗記をするような読み方ではなく、どのような表現によってどの情報を伝えているのかを学び取るようにして英語長文を読む習慣を身につけて欲しい。

2 合否ライン(予想)※他の教科が合格ラインをとったときの得点(%)予想

経済学部	65%
------	-----

3 来年受験する生徒へのアドバイス

複数の情報を整理する能力、整理した情報を日本語らしい日本語でまとめる能力、自分の意見を英語らしい英語で表現できる能力が求められている。

まず文章を読む際、型通りの逐語訳を追うだけでなく、対比や言い換えなど、その表現が担っている役割に注意を払いながら読む必要がある。これを習慣化することで、文章の構成や筆者の意図がどこにあるかも的確に読み取れるようになるだろう。

和訳問題が大幅に少なくなったが、これは和訳能力が必要ないという意味では決してない。和訳はできて当然、というスタイルで東北大学は問題を作成していると思われる。今回唯一の和訳問題であった大問Ⅰの間2ではそれをダイレクトに問うてきた。すなわち英語を英語のまま理解することはできるのだが、日本語にしようとするとなんか知識が必要になるのである。よって和訳の練習はもちろん必要だが、その際、単語を訳したものを、構文に合わせてただただ置き換えていく、といった直訳調のものではなく、申し分のない自然な日本語にできているかどうか重要なポイントだ。しかも文脈に沿ったかたちで。自分の日本語を自分で確認するのは実は難しい作業なので、自分で和訳を完成させて満足するのではなく、必ず然るべき指導者にその日本語を添削してもらうことが必要だ。

そしてなんと言っても英語による論述対策が必要だ。前期試験と同様、この傾向は続くと思われる。こちらもしっかり指導者に必ず点検してもらおう。文法や語法の間違いには自分で気づきにくいばかりか、代名詞の使いかた等により、自分の意図とはかけ離れた表現になっていることも多々あるからである。

自分がこれから英語を読む際、その英文を自分で書けるか、同じ内容を自分ならどう書くか、という視点で読むと、より多くのことが学べるはずだ。